

# 想像力と、スピード感を

新型コロナウイルス感染拡大で、中小企業への影響は計り知れない。だが、中小企業を支援する「岡崎ビジネスサポートセンター」の秋元祥治センター長(右)は「ピンチをチャンスに」と力を込める。岡崎市の公的産業支援機関として、一万三千件以上の中小企業経営者の相談に乗ってきた。コロナ禍で消費が落ち込む厳しい状況を、中小企業はどう乗り切ればいいか聞いた。

(聞き手・鎌田旭昇)

「感染拡大で相談内容に 変化する。相談の質が変化してきた。五月後半の緊急事態宣言 解除までは「安心」を求め た相談がほとんど。二月中 旬ごろから、小売り・サー ビス業でコロナ関係の相談 が増え始め、五月までは 「お金を借りたい」「助成 制度はどんなものがある か」など当面の資金繰りを

「相談の質が変化してき たか。 五月下旬から「希望」を どうすれば希望が見えるか が課題。 「コロナ禍で中小企業の 悲観してもしようがない から。時代の変化にどう対 応するかが鍵になる。生活

「ピンチをチャンスに」と訴える秋元センター長(右) 岡崎市康生通西4の岡崎ビジネスサポートセンターで



岡崎ビジネスサポートセンター長 秋元祥治さん(40)

あきもと・しょうじ 1979年、岐阜市生まれ。早稲田大政治経済学部中退。2001年に学生のインターンシップ(就業体験)を支援する「G-net」(現NPO法人)を設立。13年に岡崎ビジネスサポートセンターの所長に就任した。著書に「20代に伝えたい50のこと」。

「夏休みが少ない」「地域の富裕層が海外に行けない」「花火大会や祭りがなくなる」「お盆や敬老の日などの帰省の在り方」など。人々の気持ちごとくに向かうか想像してみる。特に自分のことより、他人のことの方がよく考えられる。自分の事業とは関係なくとも社会全体で考える。その後、自分に関連付けていったり、置き換えていったりするが良い。

## 再生の針路

三河経済インタビュー

「涼しいマスク」や「おしやれなマスク」が欲しいとニーズが変わっている。リモートワークも「しなきゃいけないもの」だったのが、「自宅で快適に仕事したい」と段階が上がった。とにかくスピード。刻々と需要は変わるので「とりあえずやってみる」が大事だ。

「経営者に必要な視点は。 未来を想像すること。直近の七・九月は昨年と同時期と何が違っているのか。 未来を想像すること。直近の七・九月は昨年と同時期と何が違っているのか。

「具体的な例は何か。 マスクを例に挙げれば、三カ月前はただただマスクが欲しかった。だが現状は「涼しいマスク」や「おしやれなマスク」が欲しいとニーズが変わっている。リモートワークも「しなきゃいけないもの」だったのが、「自宅で快適に仕事したい」と段階が上がった。とにかくスピード。刻々と需要は変わるので「とりあえずやってみる」が大事だ。